



経済センサス - 基礎調査の変更点について ～大規模調査で初めてとなるタブレット端末の導入～

経済センサス - 基礎調査

経済センサス - 基礎調査は、わが国における事業所及び企業の活動状態等の基本的構造を明らかにするとともに、各種統計調査を正確に実施するための事業所・企業情報を整備することを目的として、2019年6月から2020年3月にかけて実施されます。

新たな調査手法の導入

今回の調査では、従来の経済センサス - 基礎調査の調査手法が見直され、新たな調査手法が導入される予定です。そのうち3点を紹介したいと思います。

◆タブレット端末の活用

1点目は、タブレット端末の活用です。統計調査員は、外観から確認した事業所の情報を、支給されるタブレット端末に入力することで、市区町村に調査結果の報告を行うことができます。これにより効率的な調査の実施が期待できます。また、タブレット端末には、地図データを搭載しており、紙の地図等を用意せずに調査を行うことができます。

◆調査対象の負担軽減策

2点目は、調査対象に対する負担軽減策の実施です。これまでの経済センサス - 基礎調査では、調査対象となった全ての民営事業所に調査票の記入をお願いしていましたが、今回は、新たに確認できた事業所にのみ調査票を記入していただきます。これまでの調査で、すでに確認できている事業所については、統計調査員による外観調査のみで調査完了となります。また、調査票を受け取った事業所について

は、郵送回答だけでなくパソコンからオンラインで回答することも可能です。さらに、コールセンターも設置される予定で、記入の際に生じた疑問点等をすぐに問い合わせることができます。

◆ローリング調査手法の導入

3点目は、ローリング調査手法の導入です。ローリング調査手法では、10か月間かけて事業所を順番に調査していきます。これまでは調査対象である全ての民営事業所を一時点において調査していたため、統計調査員や地方公共団体の職員の業務量が一時集中していましたが、ローリング調査手法の導入により、業務が平準化される予定です。

新たな手法	新	旧
タブレット端末の活用	調査員がタブレット端末に入力し、調査結果を報告	調査員が市区町村に紙の名簿を持参して、調査結果を報告
調査対象の負担軽減策	新たに確認した民営事業所のみ調査票を記入	全ての民営事業所が調査票を記入
ローリング調査手法の導入	10か月間かけて事業所を順番に調査 ⇒業務量が平準化	全ての民営事業所を一時点において調査 ⇒業務量が一時集中

以上のように、2019年6月から実施される経済センサス - 基礎調査は、大幅な調査手法の変更が予定されています。本調査は、今後、事業所・企業を対象とした各種統計調査を実施していただくために必要な情報を把握する、大変重要な調査ですので、何卒ご協力をお願いします。